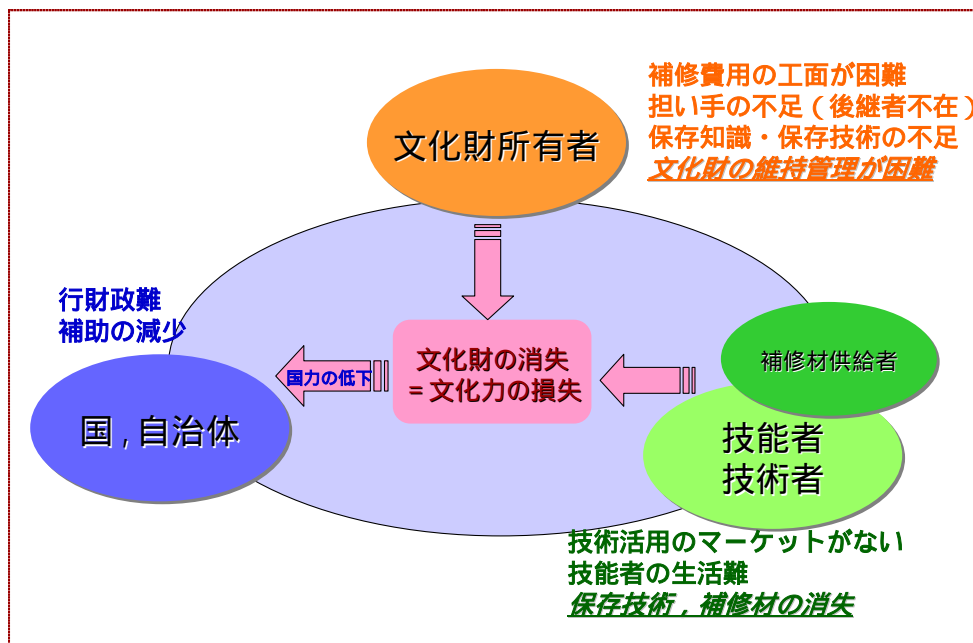


VI. 文化財保護の望ましいあり方と実現方策(調査総括)

1. 文化財保護に係る問題の構造(負のスパイラル)

様々な社会環境の変化によって、文化財保護を取り巻く環境は厳しくなっており、これまで文化財の保護に取り組んできた主な関係主体(文化財所有者、技術者・材料供給者、国、自治体等)だけでは十分な対応を行うことが困難な状況に陥っている。('文化財保護の負のスパイラル'に入りつつある)

図表 31 文化財保護に係る問題の構造(負のスパイラル)



(1) 文化財所有者が抱える主な問題点～文化財の維持管理が困難

保存のための資金の不足

- ・ 各種助成制度は整備されているものの、文化財を適切に修繕する費用を捻出することが困難である。
- ・ 文化財の補修のために、私財をなげうって修復資金を工面する方もおられる。

所有者の高齢化・後継者不在

- ・ 文化財所有者の後継者問題が深刻化している。特に中山間地域の寺社などの後継者不在が顕在化しており、住職も兼務で担っているケースが見受けられる。
- ・ 個人所有の場合も、保存のための費用負担や手間の多さから子や孫に無理をさせたくないと考える所有者が少なくない。

保存知識・保存ノウハウの不足

- ・ 文化財の保存知識・ノウハウが不足している。具体的には、文化財(掛け軸、彫刻等)用の防殺

虫剤として、専門的な薬剤ではなく、一般の樟脳などを使用している例などがある。

- ・ 各種法人所有の場合、文化財保護を専門に担当する職務がほとんどなく、保存知識・ノウハウの継承が非常に不安定な状況にある。また、個人所有の場合も、所有者の代が替わることで、文化財保護の専門的なノウハウが継承されない場合がある。

未指定文化財・未発見文化財に対する啓発の不足

- ・ 所有している未指定文化財の価値の判断ができない、また、所有実感がない状況が見受けられ、未指定文化財・未発見文化財の消失につながるケースが増えている。

(2) 技術者、材料供給者が抱える主な問題点～保存技術、補修材料の消失

職人の技術を発揮できるマーケットが縮小

- ・ 文化財保存技術を守る団体等を中心に、技術の継承に対する必死の取組が展開されているが、現代の生活様式において、文化財保存技術を活用できる市場規模が縮小している状況にある。
- ・ また、有力な市場である建造物等の大規模修復事業等も、修復時期が百年単位であるため、継続的に技術を発揮できる場が確保されていない。

材料供給のマーケットが縮小

- ・ 文化財保存技術を活用できる市場規模の縮小に伴い、文化財の補修材を活用する市場も縮小している。
- ・ 建造物の補修材等、地域の方々の世代を越えた地道な努力によって高質な文化財補修材料の提供が行われている状況であるが、安価な外国産の資材等の普及により、高質な文化財補修材料の流通が極めて限定的になっている状況がある。

後継者問題

- ・ 文化財保存技術、補修材生産技術は、わが国の文化力を支える根幹であり、社会的有用性は極めて高いにも関わらず、技術を発揮できる市場規模の縮小等により、次世代の担い手の就業機会が減少している。

(3) 国、自治体が抱える主な問題点～文化力、地域魅力の低下

厳しい文化財の行財政

- ・ 昨今の厳しい行財政状況を背景に、文化財行政の予算が十分に確保されない状況にある。

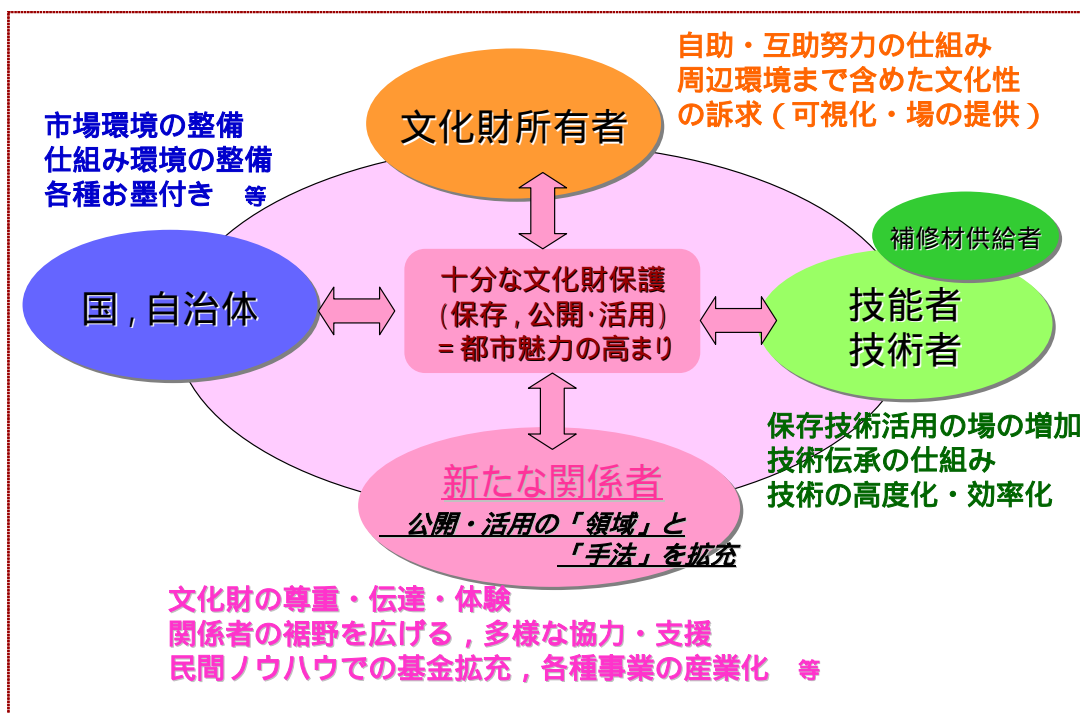
国の宝、地域の宝である文化財の消失

- ・ 文化財の消失は、国および地域の象徴、アイデンティティ、資産、文化力等の損失につながり、国および地域の社会面、経済面での損失にも直結する。

2. 文化財保護の望ましい姿(正のスパイラル)

文化財保護の負のスパイラルから脱却し、文化財保護の正のスパイラルを構築することが望まれる。正のスパイラルの構築には、従来の主体が抱える構造的な問題点や、限られた主体による限界を補完するような新たな関係主体の参画が求められる。

図表 32 文化財保護の望ましい姿(正のスパイラル)



(1) 文化財所有者の望ましい姿

自助・互助努力の仕組みが成り立っている

- ・ 正しい保存意識, 公開・活用意識(自助)が高い状態で保たれている。
- ・ 地域の様々な支援を積極的に活用する状況がある。
- ・ 効果的な資金調達(制度の有効活用, 互助による支援等)によって, 緊急性の高いものから順次継続して修復を実施することができる。

周辺環境まで含めた文化性を訴求する

- ・ 地域の宝として, また, 周辺まちづくりの核として, 地域における共有意識を高めるような場づくりを行う。
- ・ 良好な状態で保存されることにより, 地域の良好な住環境, 景観, 象徴性の強化, 集客力の向上等に資する。

(2) 技能者・技術者，補修材供給者の望ましい姿

継続的な保存技術の活用が用意されている

- ・ 緊急性の高いものから順次修復発注が行われ，保存技術を活用した持続的な市場が確立している。
- ・ 互助の仕組みによって多様な主体が支援しながら，安定した補修材の生産・供給が行われている。

保存技術の伝承の仕組みが成り立っている

- ・ 継続的に担保された市場によって，魅力的な職として改めて認知され，保存技術の伝承が行われる環境が整っている。

(3) 新たな関係者の望ましい姿

文化財の尊重・伝達・体験の場の拡大

- ・ 文化財に対する正しい認識，関わり方の豊かさなどが伝播して，新たな関係者の認知度・関心度を高める。

文化財支援ネットワークの強化

- ・ 関係者の裾野を広げる場が広がり，多様な主体の参画の下，支援ネットワークが強化される。
- ・ 多様な主体の参画，連携によって，既存支援団体の事業運営，各種活動の機能が高まる。

民間ノウハウ等を活用した資金調達力の強化

- ・ 公開・活用手法を高度化するようなアイデアやノウハウを提供し，協働する。
- ・ 募金や寄付，会員参加などにより，補修の資金調達力が高まる。

(4) 国，自治体の望ましい姿

制度の整備

- ・ 文化財の保存及び公開・活用を支える制度の整備を行う。
- ・ 税金の効果的な運用等を検討する。

文化財に関する市場の環境を整備する

- ・ 公的な信頼性を担保に，各種お墨付きなどを効果的に活用し，民力を活用した文化財市場の整備を行う。
- ・ 文化財保存技術や補修材が途絶えないような活用事業を支援する。

3. 文化財保護の望ましい姿へのアプローチ

文化財の保存環境が大変厳しいなか、文化財保護の負のスパイラルを正のスパイラルに転換するためには、特に文化財の公開・活用を積極的に捉え直し、「保存と公開・活用のサイクル」を構築する必要がある。

持続的な公開・活用 - 保存サイクルを循環させるためには、地域における文化財のはたらきを幅広く捉え直し、地域における文化財の日常的なはたらきを強めていくとともに、幅広い関係主体の参画が文化財支援に関わることが求められる。

(1) 持続可能な公開・活用 - 保存サイクルの構築

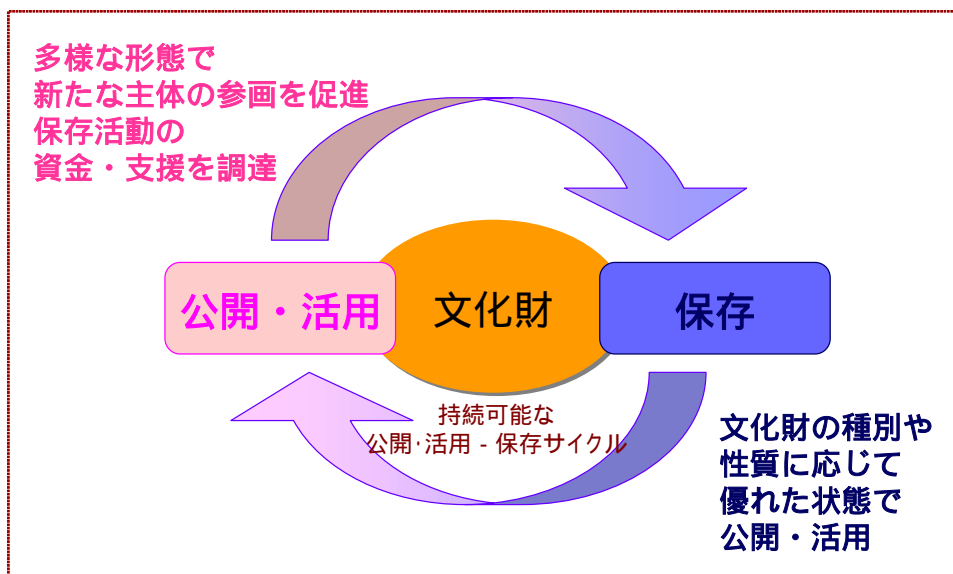
持続的な公開・活用 - 保存サイクルとは、文化財の種別や性質に応じた形で、以下のプロセスをリンクさせて、継続的に実施することである。

文化財を適切に公開・活用する

文化財の公開・活用により、関係者の意識を高め、協力者の裾野を広げ、保存活動に必要な修復資金・物資等を調達する

調達した修復資金・物資等により、適宜必要な補修を施し、良好な状態で保存する

図表 33



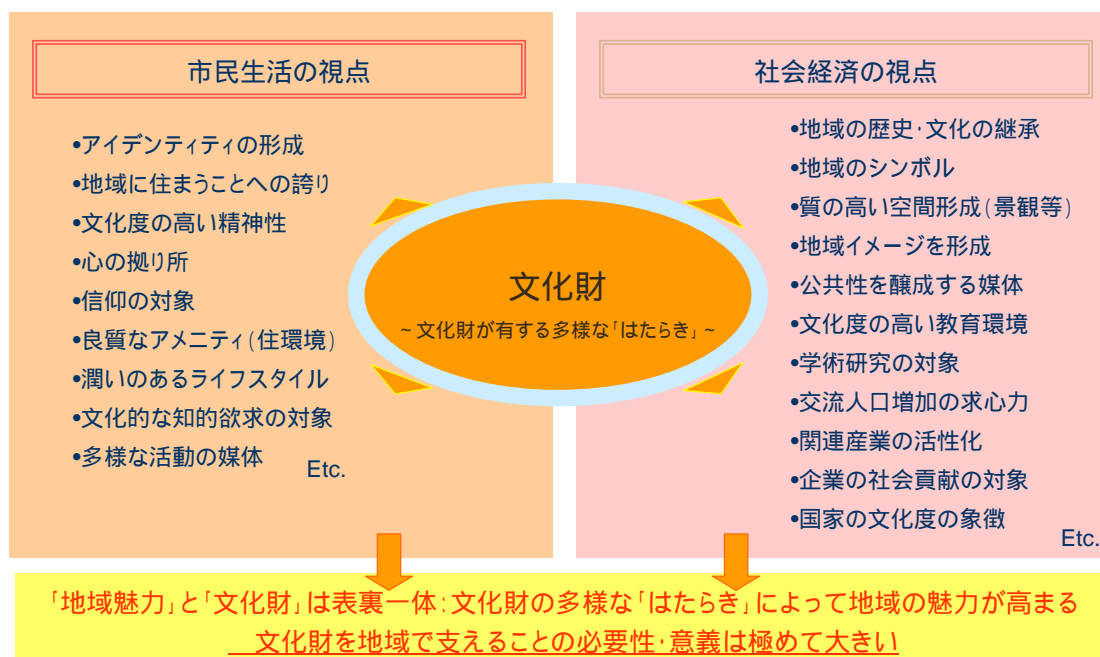
(2) 持続的な公開・活用 - 保存サイクル構築の視点

持続的な公開・活用 - 保存サイクルの構築は、文化財の多様なはたらきを改めて捉え直す(文化財の保存及び公開・活用の必要性や手法の幅を広げる)とともに、サイクルの担い手となる関係主体を幅広く捉え直す(新たな文化財支援の担い手を増やす)必要がある。

地域における文化財の多様なはたらきを高める

- 文化財が有する多様なはたらきは、文化財の保存及び公開・活用の必要性そのものであり、公開・活用 - 保存サイクルの構築に向けて、文化財のはたらきが及ぶ「場」を明確化・共有する必要がある。
- 文化財のはたらきは、大きく市民生活の視点と社会経済の視点に分けられ、両視点のはたらきがあいまって地域魅力を高めている。(文化財を地域で支えることの必要性・意義は極めて大きい)
- 文化財の持続的な公開・活用 - 保存サイクルを持続的なものとするためには、文化財を現在の生活様式の中で「生きたもの」として捉え直し、地域における文化財のはたらきを高め続ける必要がある。

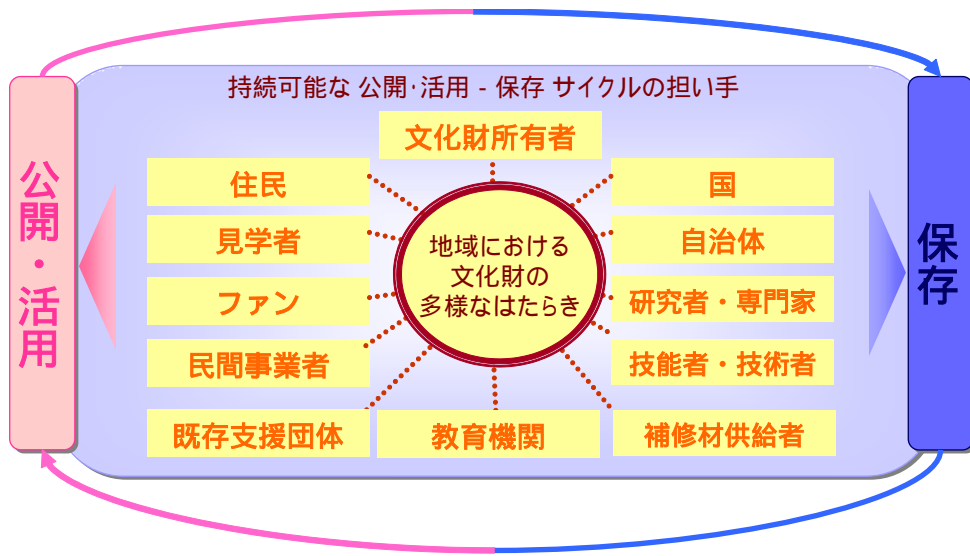
図表 34 地域における文化財の多様なはたらき



持続的な公開・活用 - 保存サイクルの多様な担い手の参画を促進する

- 持続的な公開・活用 - 保存サイクル構築のためには、既存の関係者だけでは限界があり、より多様な担い手の参画が必要になる。
- 新たな関係者が持続的な公開・活用 - 保存サイクルに参画するには、文化財の多様なはたらきを享受する、または実感することが必要になる。多様な関係者が、文化財のはたらきを享受し、実感できるような「場づくり」が重要になる。
- 文化財のはたらきを高める活動に参加する方法は、関係主体の性質や属性に応じて多岐にわたる。参画の方法を広げ、深めていくことが望まれている。

図表 35 持続可能な公開・活用 - 保存サイクルの多様な担い手

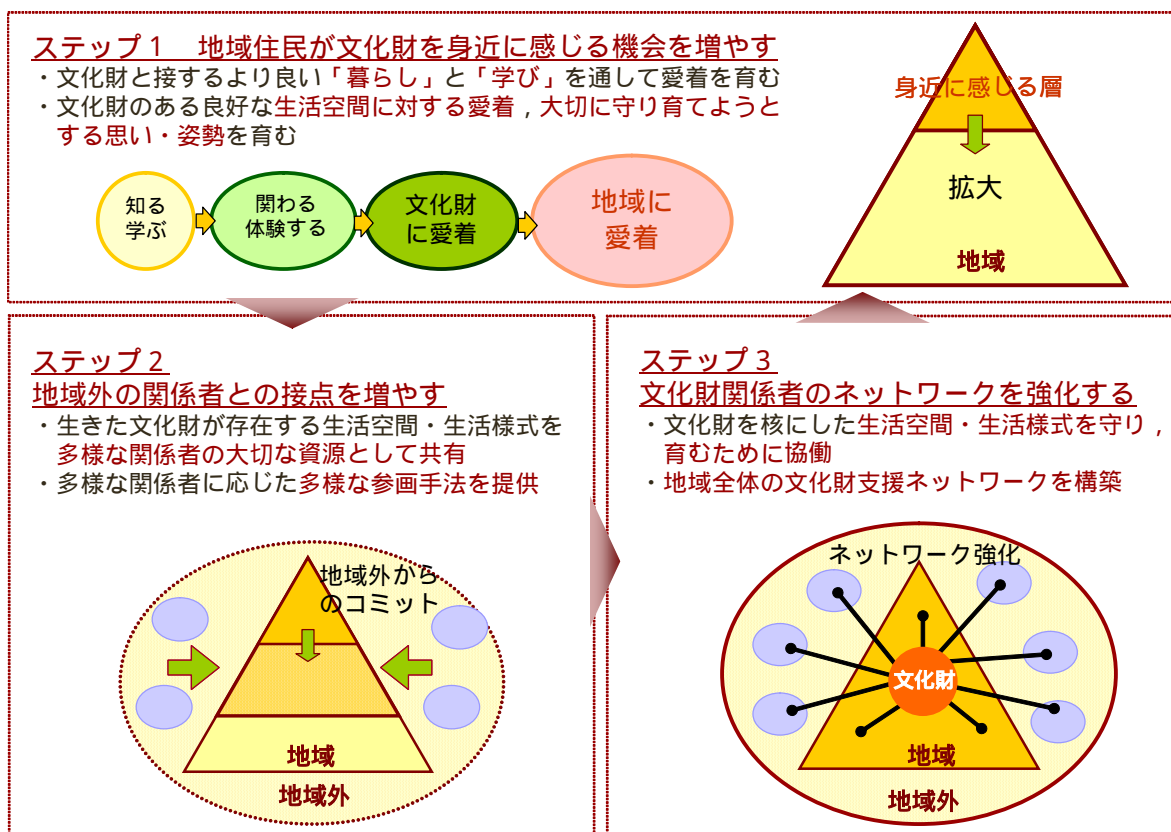


4. 新たな関係者の文化財支援参加促進モデル

文化財のはたらきを高め、多様な担い手を巻き込みながら正のスパイラルを形成するためには、多様な主体が文化財支援に対してより深く参画する具体的な仕組み(効果的な公開・活用の手法の確立)が求められる。

多様な主体が文化財支援に参画する仕組みは、「地域住民が文化財を身近に感じる機会を増やす」「地域外の関係者との接点を増やす」「文化財に参画する関係者をネットワーク化する」という一連の流れで実施する必要がある、各ステップの具体的なメニューを充実させていく必要がある。

図表 36 新たな関係者の文化財支援参加促進モデル



(1) ステップ1: 地域住民が文化財を身近に感じる機会を増やす

文化財と接するより良い「暮らし」と「学び」を通して愛着を育む

- 文化財は所有者の宝であるとともに、地域が誇るべき宝でもある。文化財の所在と一番近い存在(=地域住民)が文化財を身近に感じる機会を増やし、支援の基盤を確固たるものにしていくことが重要である。
- 文化財がその地域に対して持つはたらき(市民生活の視点, 社会経済の視点)を改めて捉え直し、地域で共有し、日常生活における文化財との関わり(=受益実感)を高めていく必要がある

ある。そのために、日常生活において文化財をより身近に感じることが可能な場づくり(文化財の効果的な公開・活用の手法の確立)が求められる。

- ・ 文化財を身近に感じるための切り口として、より質の高い暮らし、学びを得たいという欲求は人間の本質的なものであり、より良い暮らし、より良い学びの観点から文化財との関わりを高めていくことが効果的である。文化財を通したより良い暮らし、より良い学びのあり方を追求していくことで、適切かつ多様な公開・活用の手法が拓かれる。
- ・ 地域の文化財を知る・学ぶことから始まり、様々なケースで文化財に関わり、体験することを通して、文化財に親しみを強める、地域への誇りと愛着を高めていくことが可能になる。

文化財のある良好な生活空間に対する愛着，大切に守り育てようとする思いや姿勢を育む

- ・ 文化財への親しみ、地域への誇りと愛着の高まりとともに、文化財が生きている生活空間を大切に守り育てようとする思いや姿勢を醸成し、共有していくことが重要である。
- ・ 生きた文化財が存在する生活空間への愛着，大切に守り育てようとする思いや姿勢が共有されることで、文化財のある日常空間を守る様式やルール(景観条例、まちづくり条例等)が生まれ、地域の精神性が表現される。
- ・ 生きた文化財が存在する生活空間と、そこに表現された地域の精神性は、地域外の多くの人にとって尊厳の対象、憧れの空間となり、触れてみたい、訪れてみたいという新たな訴求力を生み出す。

(2) ステップ2：地域外の関係者との接点を増やす

生きた文化財が存在する生活空間・生活様式を多様な関係者の資源として共有

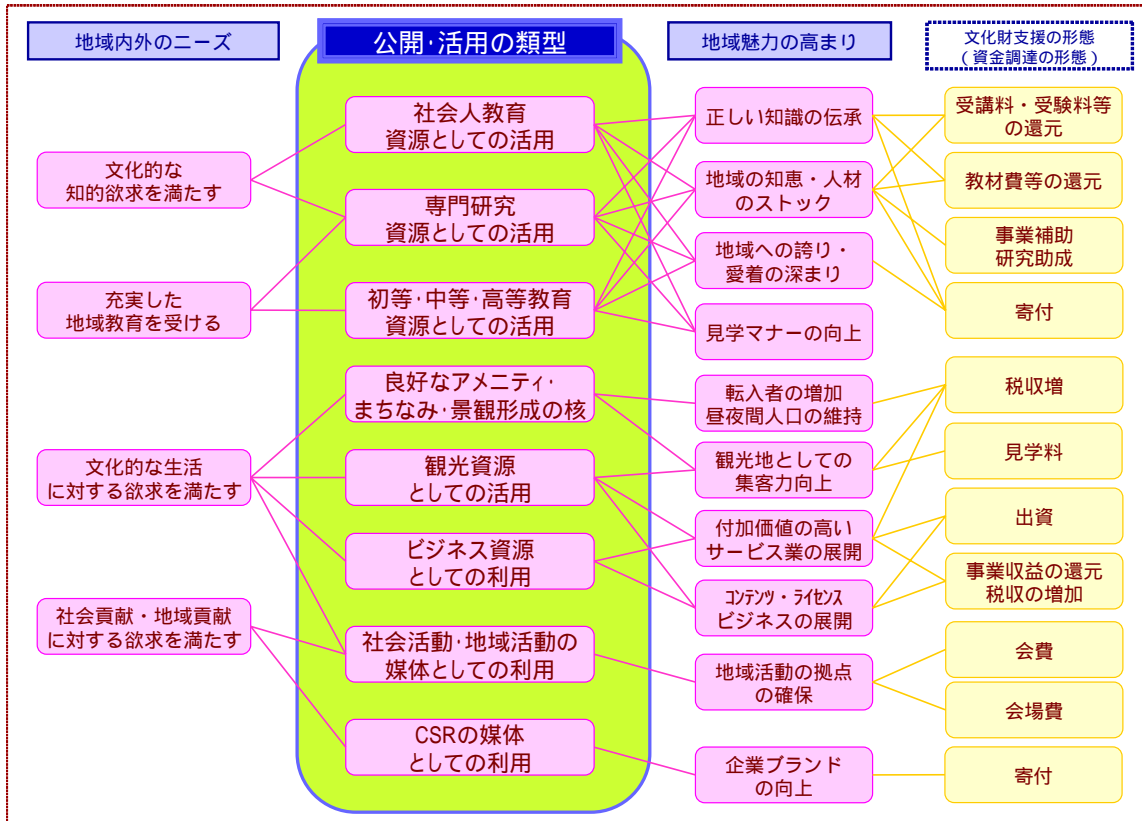
- ・ 文化財の保存 - 公開・活用サイクルをより持続的なものとして構築するためには、地域住民だけでなく、地域外の多様な主体が参画することが重要になる。そこで、地域に支えられて生きた文化財が存在する生活空間・生活様式を通して、地域外の関係者の接点を増やしていくことが求められる。
- ・ 生きた文化財が存在する生活空間・生活様式は、地域ならではの教育資源であり、観光資源であり、ビジネス資源になる。多様な関係者の大切な資源として共有することで地域外の関係者との接点を増やしていくことが可能になる。地域外の関係者との接点が増えることで、文化財の適切な公開・活用の手法を多様な形式で確立する機会が広がる。(=適切な保存活動の支援につながる)
- ・ 生活空間・生活様式の共有にあたっては、地域のルールを尊重し、十分理解しあうことが前提となる。

多様な関係者に応じた多様な参画手法を提供

- ・ 地域外の関係者との接点を増やし、文化財の適切な公開・活用の手法を多様な形式で確立するためには、関係主体の性質や属性に応じた参画の方法を提供する必要がある。見学者、ファン、民間事業者、研究者など、多様な関係者のニーズに合う形で、地域に負荷がかからな

い参画方法を提供する必要がある。

図表 37 文化財の公開・活用の類型



図表 38 多様な関係者の多様な参画方法

関係主体	ネットワーク参画のあり方
所有者	保存及び公開・活用の意識の向上, 支援の積極的な活用 等
住民	学び, 支援意識の向上, 寄付, ボランティア参加, 地域活動のステージ 等
見学者	見学料, 寄付, 各地での口コミなどによる啓発 等
ファン	寄付, ボランティア参加, 各地での口コミなどによる啓発 等
民間事業者	CSR, 事業の付加価値向上, 公開・活用ノウハウの開発・提案 等
既存支援団体	既存活動の拡充, 既存の機能の強化, 他団体との連携 等
教育機関	教育を通じた意識の向上, 生活様式を守り, 育む 等
研究者・専門家	さらに効果的な保存技術の開発, 公開・活用手法の開発 等
自治体	幅広い情報提供, 事業に対する助成, その他支援 等
国	幅広い情報提供, 事業に対する助成, その他支援 等
技能者・技術者	修復技能の公開・啓発, 修復技能の伝承 等
補修材供給者	修復材料の継続的な提供 等

(3) ステップ3:文化財関係者のネットワークを強化する

文化財を核にした生活空間・生活様式を守り，育むために協働する

- ・ 地域内外の多様な関係者によって，生きた文化財が存在する生活空間・生活様式を共創していくことによって，より持続可能な保存 - 公開・活用サイクルが構築される。
- ・ 地域内外の多様な関係者による共創には，地域の文化財支援団体等の支援が不可欠である。各支援団体が，それぞれの理念や強みを活かしながら，地域内外の多様な関係者を巻き込みながら保存 - 公開・活用サイクルの運営を支援していくことが望まれる。

地域全体の文化財支援ネットワークを構築する

- ・ 生きた文化財が存在する生活空間・生活様式の資源の種類や，公開・活用の方法等によって個別に文化財支援が行われることになるが，より効果的な保存 - 公開・活用サイクルの運営を行うために，地域全体の文化財支援のネットワークとして多様な取り組みを連動させていく必要がある。
- ・ 文化財支援の正のスパイラル構築に向けて，地域の文化財保護を総合的に把握し，文化財支援の課題を明確にして，既存の支援団体がより効果的に連携したり，新たな関係者の参画によって補完したりすることをコーディネートしながら，地域全体の魅力を高めるような文化財支援のネットワークを構築する。